

新オトリーカードモデル事業  
報告書

沖縄県宮古保健所 健康推進班

平成 28 年 3 月

# 新オトリーカードモデル事業 報告書

I 目的	1
II 調査方法	
III 調査結果	
1. 単純集計（性別・年代別／出身別・年代別）	2
(1) 配布および回収率	
(2) 属性	
(3) オトリーの頻度	
(4) オトリーの機会	
(5) オトリーに関する意見	
(6) 節酒意識	
(7) 適正飲酒量の理解	
(8) 1年前と比べた飲酒量	
(9) 新オトリーカード使用の有無	
(10) 新オトリーカードの使用頻度	
(11) AUDIT 合計点数	
2. 新オトリーカードの有無による分析	7
(1) 適正飲酒量の理解	
(2) 飲酒量の変化	
(3) AUDIT 合計点数の変化	
IV 考察	10
V まとめ	
資料編	13

## I 目的

宮古圏域は県内でも多量飲酒者の多い地域であり、その要因の1つとしてオトーリが挙げられる。そのため宮古保健所では、平成17年からつきあい酒が多い人に対し飲酒量を自己管理できるツールとしてオトーリカードを発行し、節酒についての意識付けをおこなってきた。平成27年度は、宮古圏域の関係機関が相互に協力し、安全で安心して暮らせる宮古圏域の実現を目指すことを目的に「美ぎ酒飲み運動」を推進しているところである。

今回、宮古圏域における協力機関の働き盛り世代に対し、リニューアルしたオトーリカードを発行することにより、さらなる適正飲酒量の理解度向上と飲酒量減少の効果を検証することを目的にモデル事業を実施する。

## II 調査方法

### 1. 対象者

宮古管内県出先機関に所属する職員及び宮古島警察署職員 291名

### 2. 期間

平成27年8月～平成28年1月

### 3. 方法

#### (1) 調査方法

①8月：対象機関職員の約半数の人に対し、新オトーリカード<sup>※1</sup>とリーフレット<sup>※2</sup>を配布する。

対象機関職員全員に対し、自記式アンケート調査表<sup>※3</sup>を配布し回収する。

②10月：対象機関職員全員に対し、自記式アンケート調査表<sup>※3</sup>を配布し回収する。

③1月：対象機関職員全員に対し、自記式アンケート調査表<sup>※3</sup>を配布し回収する。

※対象機関ごとに窓口担当者が取りまとめ、保健所職員が回収をおこなう。

#### (2) 配布（別添）

※1 新オトーリカード：お酒を断る文言、適正飲酒量等

※2 リーフレット：カードの使用方法、宮古地域の飲酒状況、適正飲酒量等

※3 アンケート調査表：性別、年齢、オトーリの有無・頻度、オトーリの好き嫌い、AUDIT、AUDIT点数の見方、適正飲酒量の認知度等

#### (3) 評価・分析

3回のアンケート調査表を用いて、オトーリカードや適正飲酒量の認知度、カード取得による意識や行動の変容について評価をおこない、適正飲酒量の理解度向上と飲酒量減少における新オトーリカードの効果を検証する。分析結果は、調査を実施した事業所に報告する。

### Ⅲ 調査結果

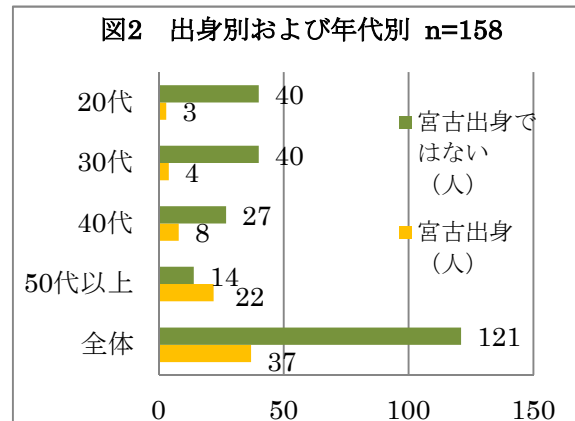
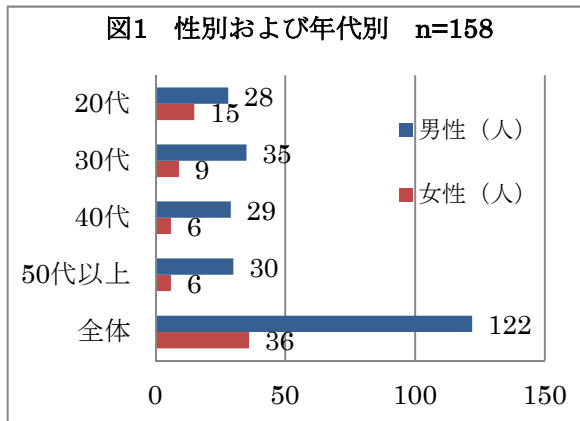
#### 1. 単純集計

##### (1) 配布および回収率

配布数 291、有効回答数 158、有効回答率 54%

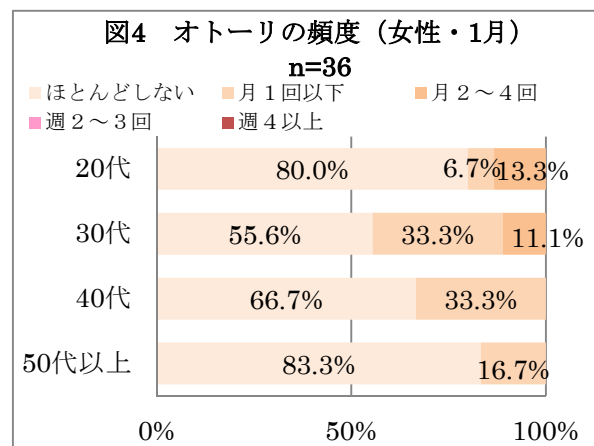
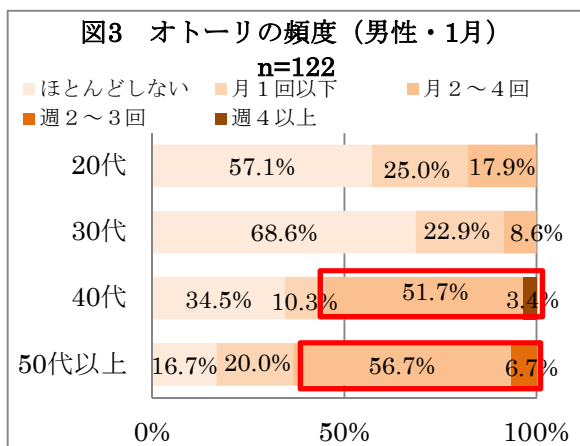
※有効回答とは、3回アンケートに回答かつ未記載がないものとする

##### (2) 属性（性別・年代別／出身別・年代別）

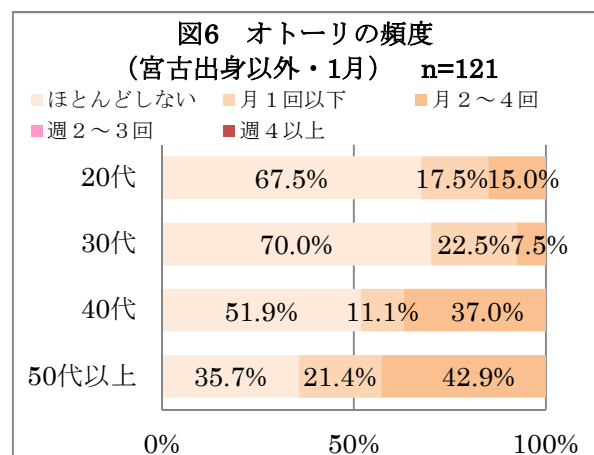
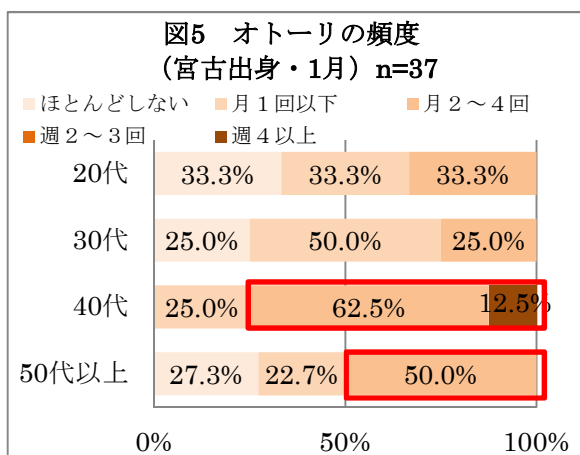


##### (3) オトリーの頻度

40代～50代男性は、月に2回以上オトリーをする者が半数以上いる。

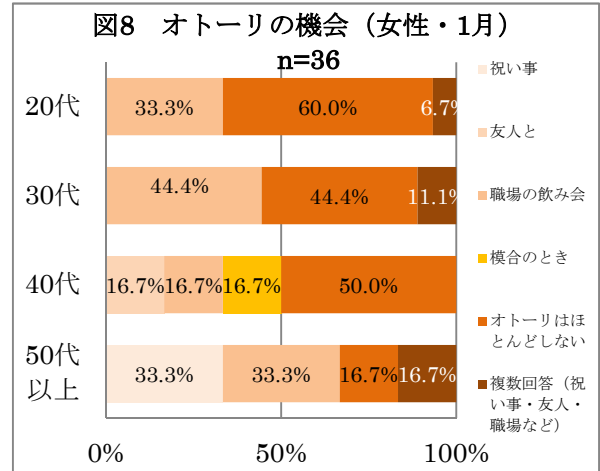
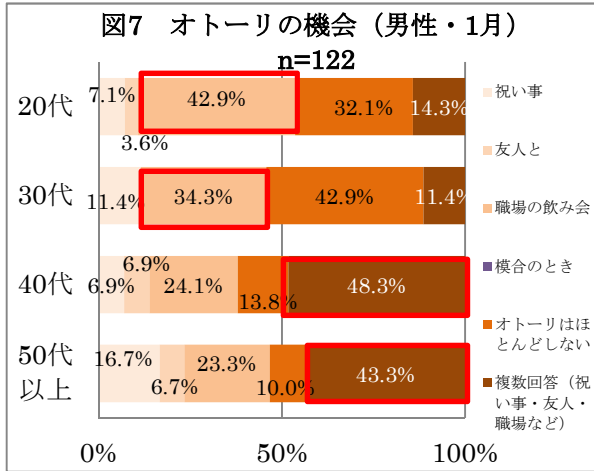


宮古出身者の40代～50代は、月に2回以上オトリーをする者が半数以上いる。

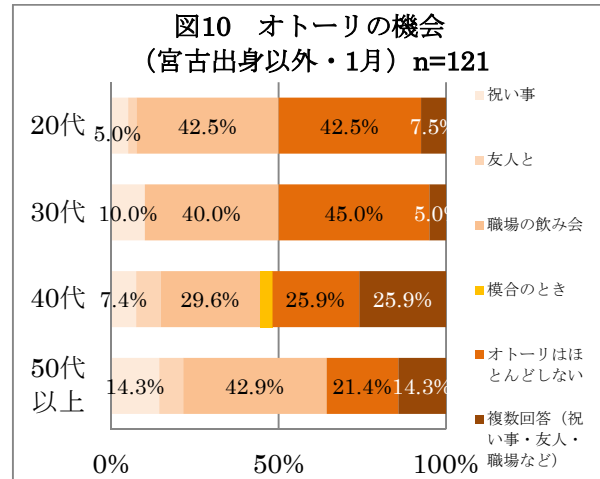
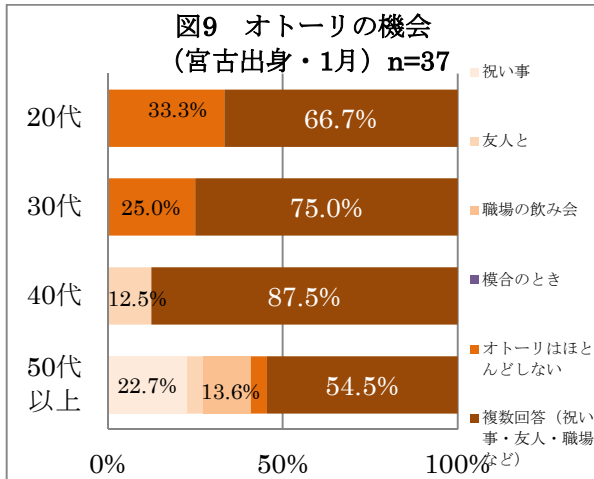


(4) オトリーの機会

20代～30代の男性は、オトリーをする際は職場の飲み会でおこなうと答えた割合が高く、40代～50代の男性は、祝い事や友人・職場など複数回答が多かった。

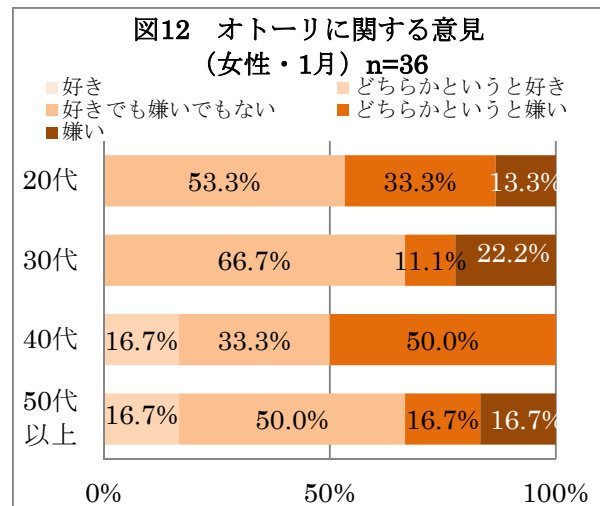
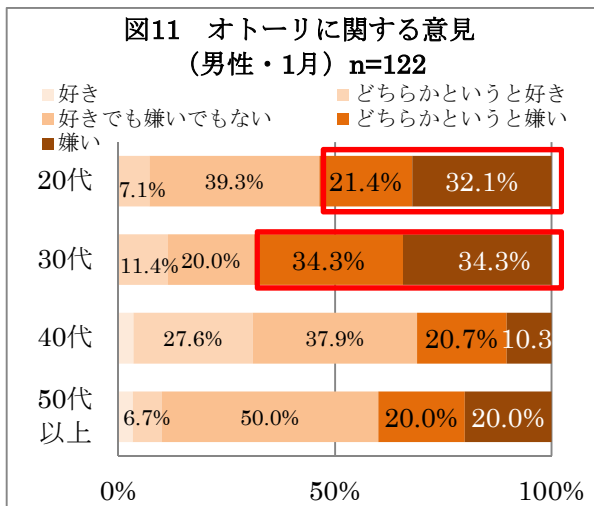


宮古出身者は、祝い事・友人・職場でなど複数回答が多かった。

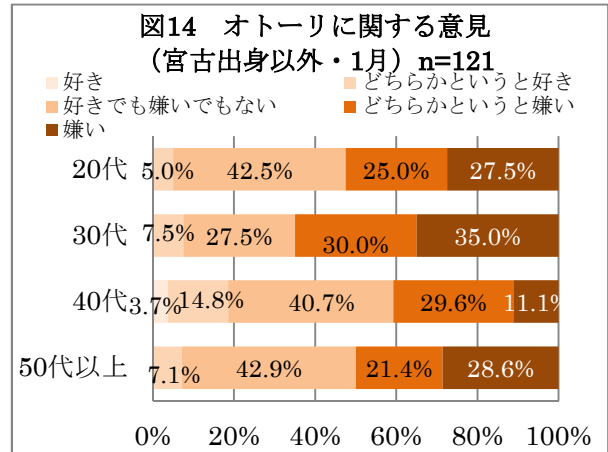
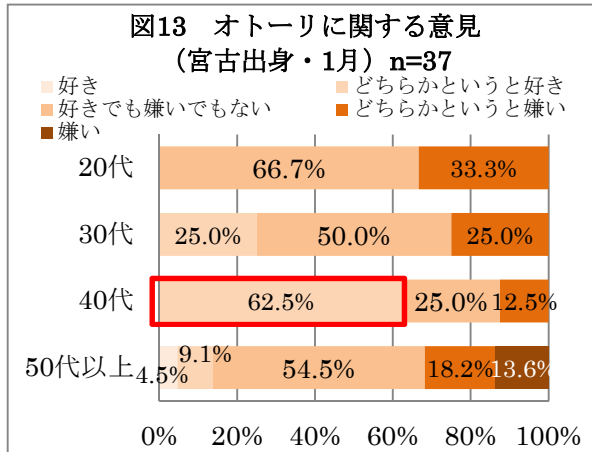


(5) オトリーに関する意見

20代～30代の男性は、オトリーが「どちらかという嫌い」「嫌い」の割合が半数を超えていた。

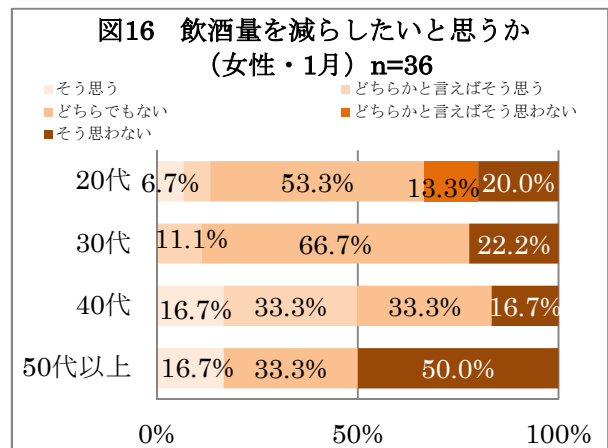
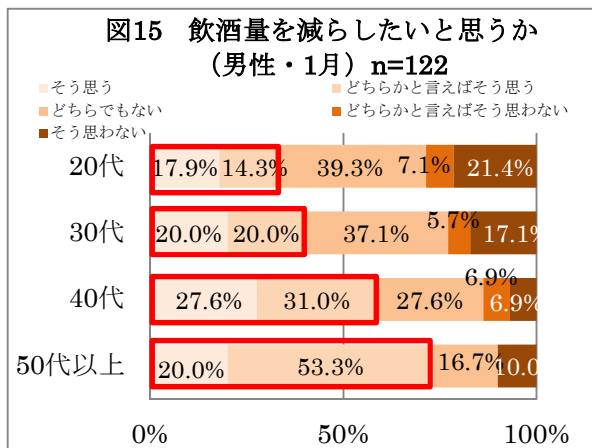


宮古出身の40代は、オトリーが「どちらかというとき好き」の割合が62.5%と多かった。



(6) 節酒意識

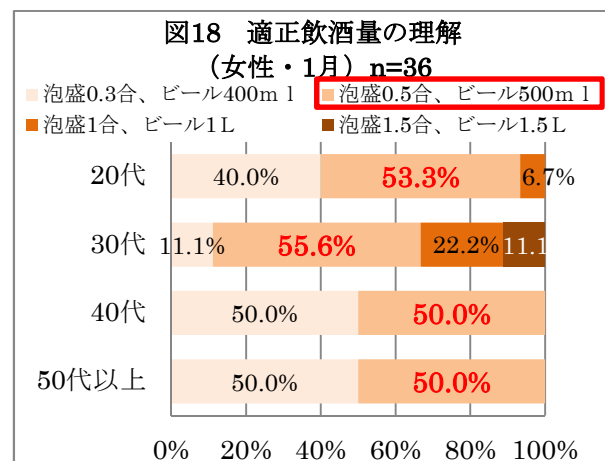
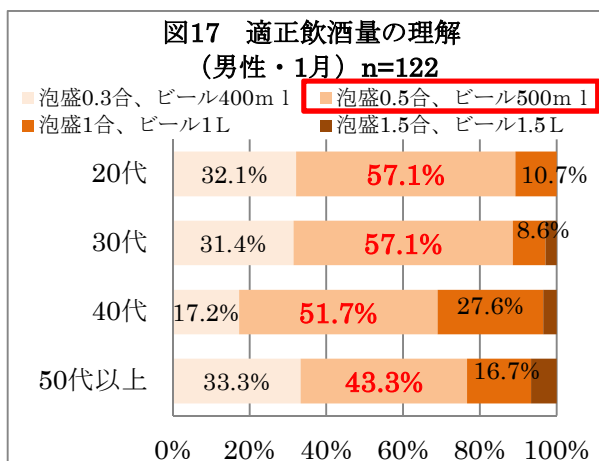
男性は、年代が上がるごとに飲酒量を減らしたいと思う人が増えていた。出身別でも同様の傾向であった。



(7) 適正飲酒量の理解

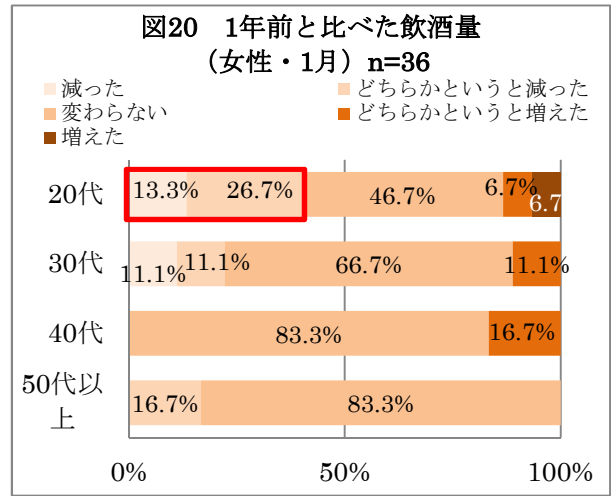
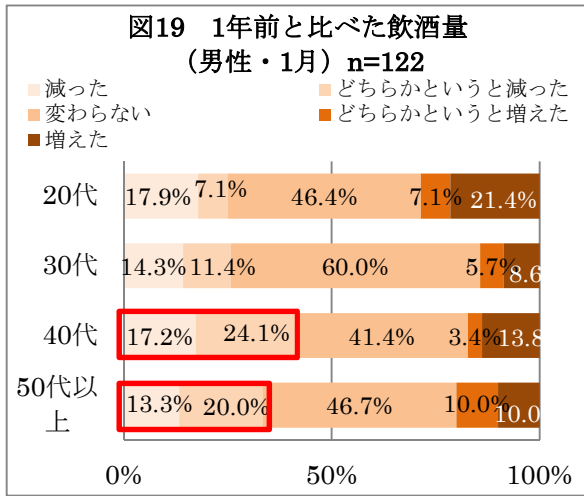
※適正飲酒量（節度ある適度な飲酒量）とは、1日あたり純アルコール分20g程度のこと。  
例えば、泡盛（30度）0.5合、ビール（5%）500ml、日本酒（15%）1合180mlなど

どの年代においても、適正飲酒量の理解度は40~50%台であり、出身別でも同様であった。



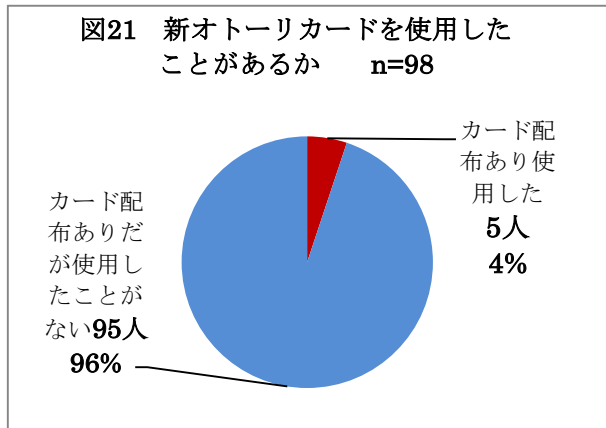
(8) 1年前と比べた飲酒量

飲酒量が「減った」「どちらかというが減った」という割合は 40～50 代男性と、20 代女性で多い傾向があった。宮古出身者の 40～50 代においても同様に、「減った」「どちらかというが減った」という割合が 40～50%台と多かった。



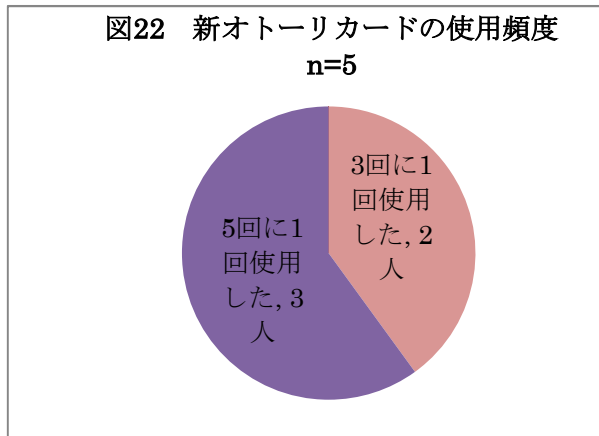
(9) 新オートリカード使用の有無

新オートリカードを配布した 98 人中、カードを使用したことがあるのは 5 人であった。



(10) 新オートリカードの使用頻度

新オートリカードを使用したことがある 5 人のうち、3 回に 1 回使用は 2 人、5 回に 1 回使用は 3 人であった。



(11) AUDIT 合計点数

**AUDIT (オーディット) とは…**

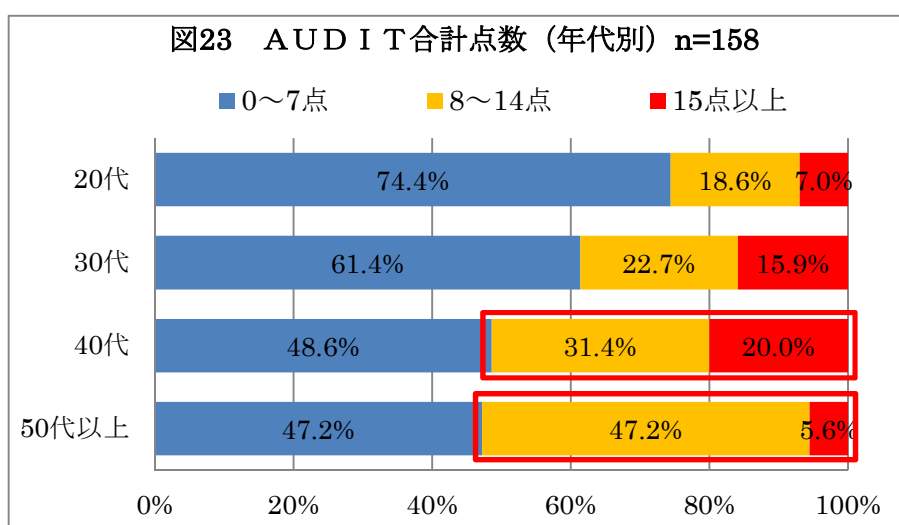
問題飲酒を早期に発見する目的でWHOにより作成された「アルコール使用障害同定テスト」のこと。

**AUDIT 点数の見方**

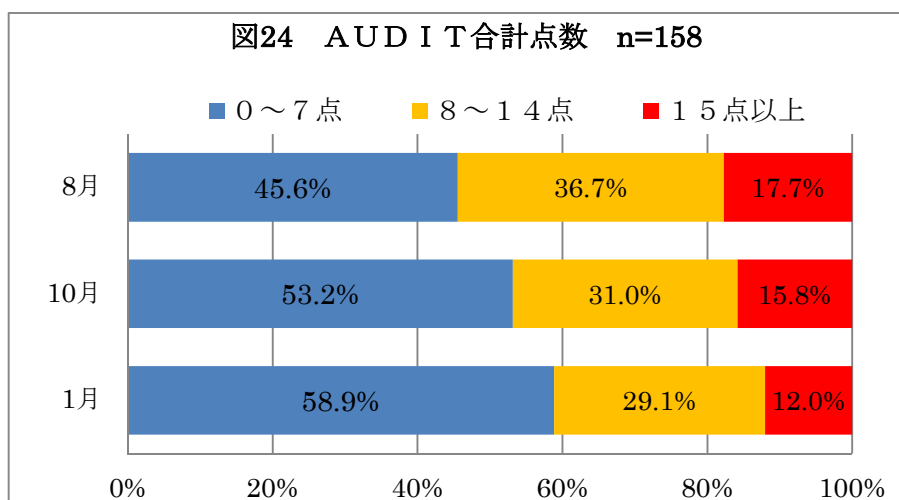
0～7点	非飲酒群／危険の少ない飲酒群（問題飲酒ではないと思われる）
8～14点	危険な飲酒群（問題飲酒ではあるが、アルコール依存症までには至っていない）
15～40点	アルコール依存症疑い（アルコール依存症が疑われる）

※地域や文化により点数の cut-off 値は異なる

40代～50代の半数以上が、AUDIT8点以上の危険な飲酒群であった。



8月・10月・1月を比較すると、AUDIT 8点以上の危険な飲酒群と AUDIT 15点以上のアルコール依存症疑い群の割合が減っていた。

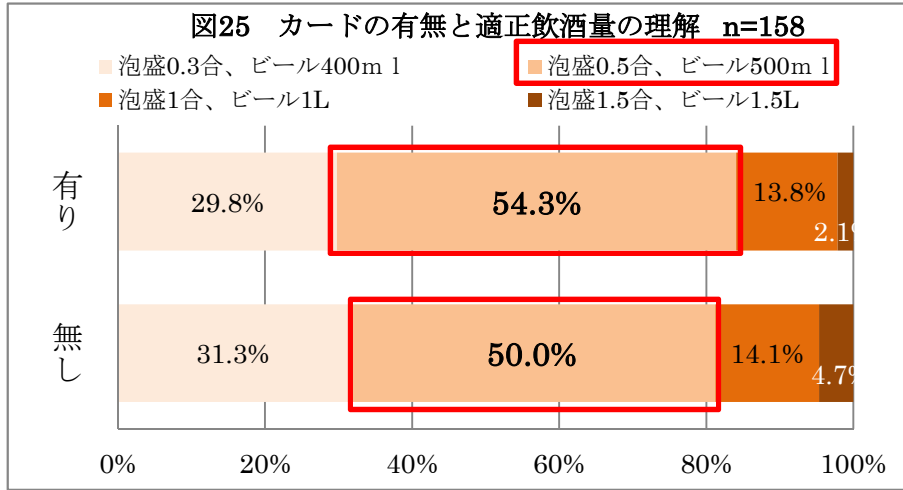




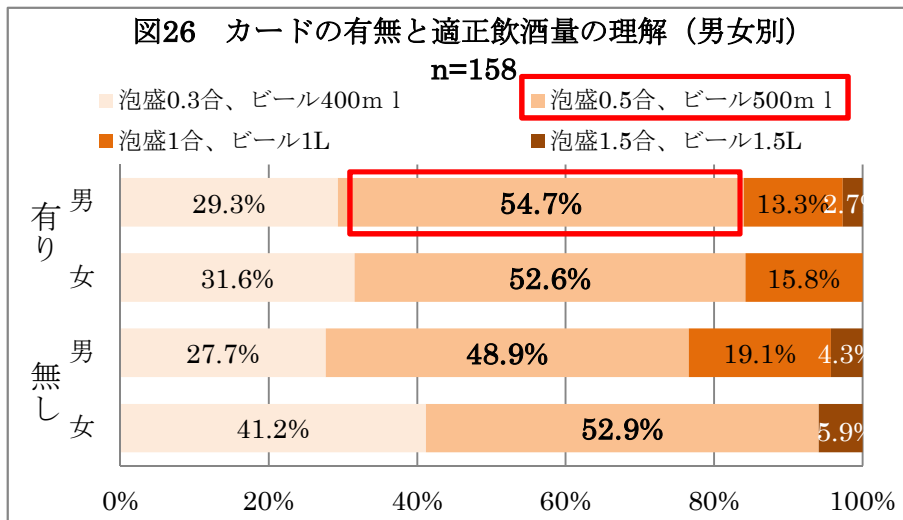
## 2. 新オトリーカードの有無による分析

### (1) 適正飲酒量の理解

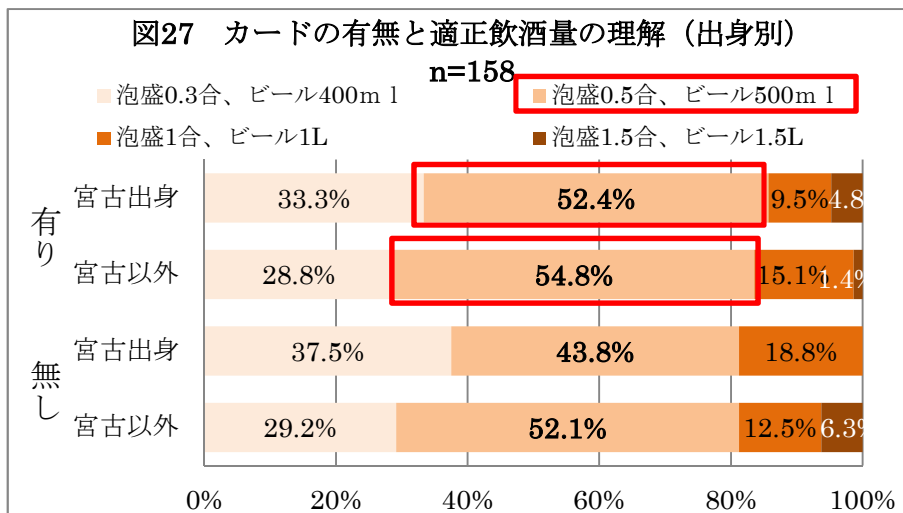
新オトリーカード有り群が、カード無し群と比べて、適正飲酒量を理解している割合が高かった。



男女別でみると、カード有り群の男性が、適正飲酒量を理解している割合が54.7%と高かった。

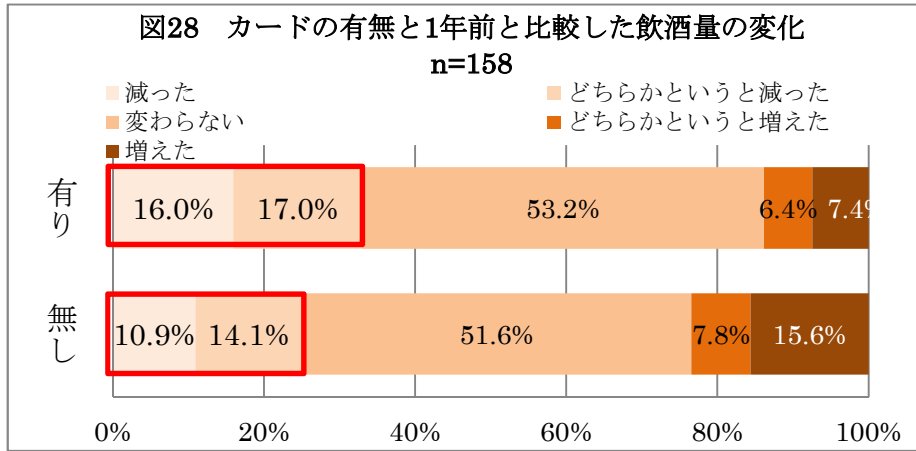


出身別でも同様に、カード有り群が適正飲酒量を理解している割合が高かった。

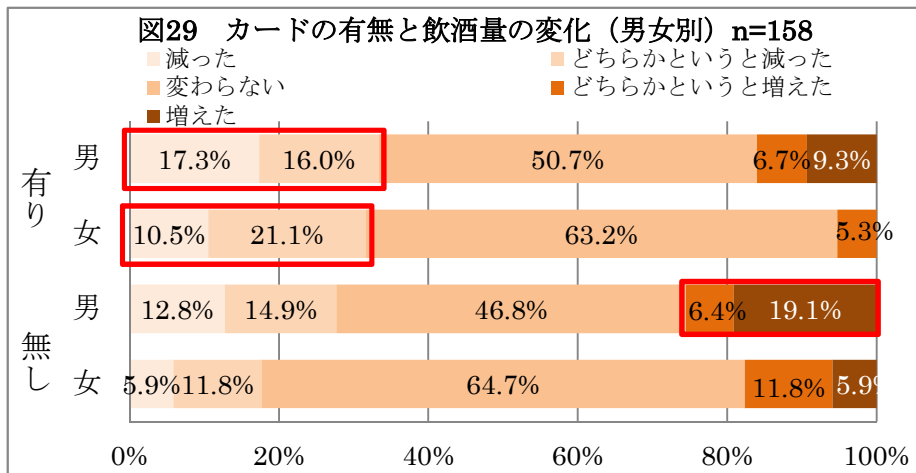


(2) 飲酒量の変化

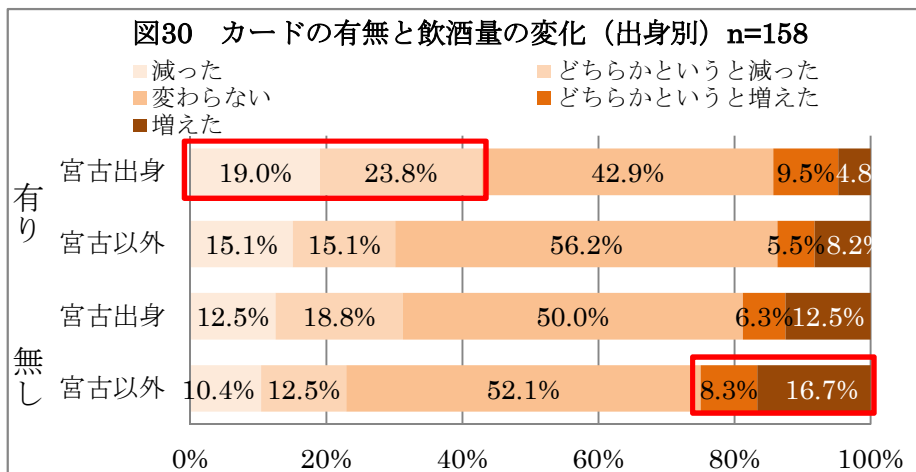
新オトリーカード有り群が、カード無し群と比べて、飲酒量が「減った」「どちらかという減った」と答える割合が多かった。



男女別でも、ともにカード有り群の方が飲酒量が「減った」「どちらかという減った」という割合が多かった。また、カード無し群の男性は「どちらかという増えた」「増えた」という割合が25.5%と多かった。

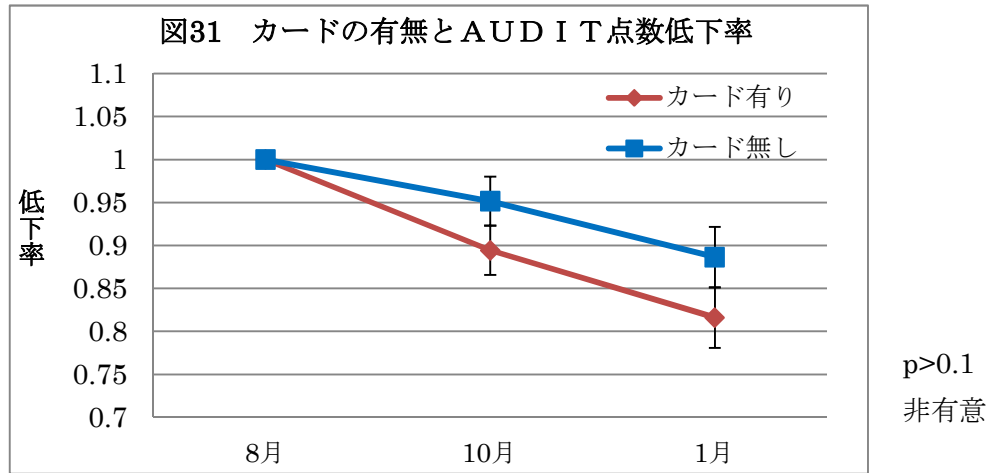


出身別で見ると、カード有り群の宮古出身者が、飲酒量が「減った」「どちらかという減った」の割合が42.8%と多かった。また、カード無し群の宮古出身以外は「どちらかという増えた」「増えた」という割合が25%と多かった。

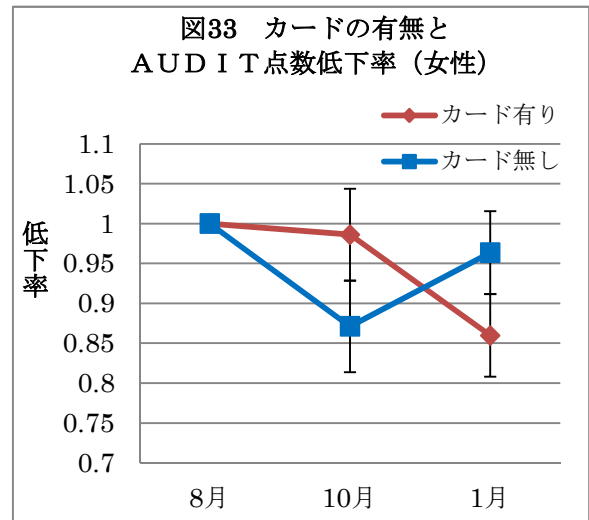
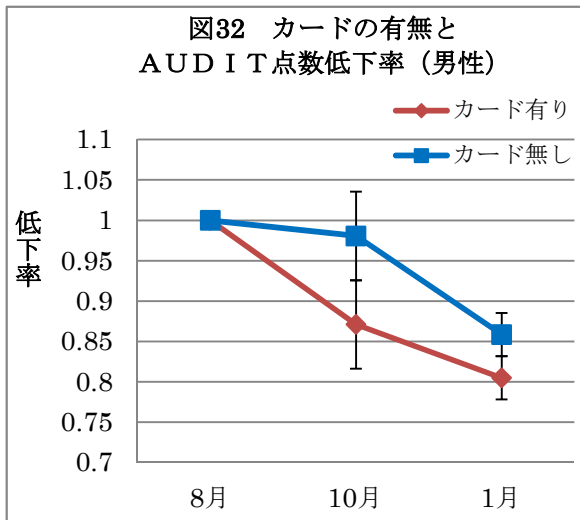


(3) AUDIT 点数の変化

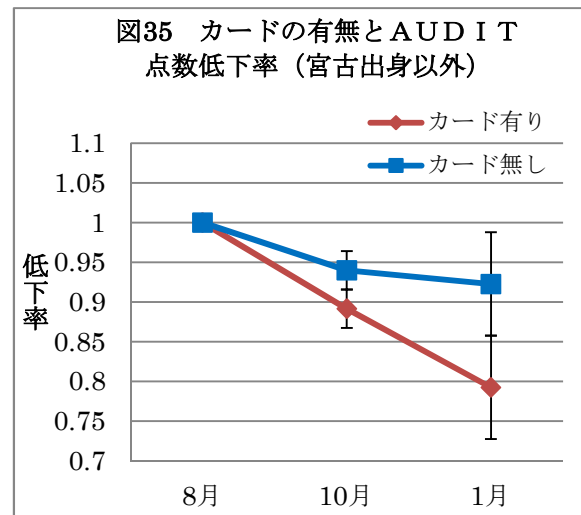
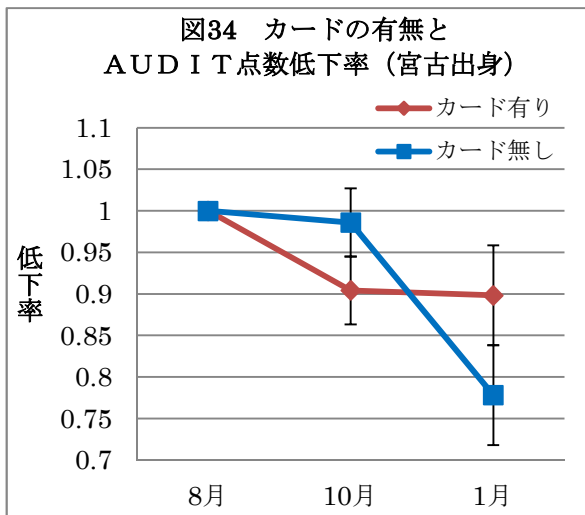
8月のAUDIT平均点数を、カード有り群・無し群ともに1とした場合の10月、1月のAUDIT点数の変化をみると、カード有り群の方が低下傾向にあったが、有意差はなかった。



男女別でみると、男性はカードの有無に関わらずAUDIT点数の低下傾向がみられ、カード有り群がより低下していた。



出身別でみると、宮古出身者以外のカード有り群は、AUDIT点数低下率が大きかったが有意差はなかった。一方で、宮古出身者はカード無し群の低下率が高かった。



## IV 考察

### 1. オトリーについて

オトリーの頻度については、40～50代男性が月2回以上と答えた人が多く、特に宮古出身者に多い傾向であった。(図3・図5) また、オトリーの機会として、20～30代は職場の飲み会が多いが、40～50代では複数回答(祝い事・友人・職場など)が多く、オトリーの頻度が多いことにつながっていると考えられる。(図7・図9)

オトリーに関する意見として、20～30代男性はオトリーが「嫌い」「どちらかという嫌い」の割合が高いが、40代の宮古出身者はオトリーが「どちらかという好き」の割合が高かった。(図11・図13) しかし、「今より飲酒量を減らしたいか」という節酒意識については、男性は年代が上がるごとに割合が増えており、オトリー頻度と比例している。(図15) そのことから、飲酒量や頻度を減らしたいと思いつつも、祝い事や友人・職場など、機会的にオトリーをおこなっており飲酒頻度が多くなっていることが考えられる。

### 2. 適正飲酒量の理解について

どの年代においても、適正飲酒量(節度ある適度な飲酒量)の理解度は40～50%であった。(図17・図18) 平成23年度県民健康・栄養調査〔沖縄県〕によると、「節度ある適度な飲酒量」について知っていると回答した者は、男性32.0%、女性23.8%であり、今回の調査結果の方が高い結果であった。今回、対象者の半数の者に配布した新オトリーカード裏面には、適正飲酒量を明記していることも、理解度が高かった原因と考えられる。

### 3. 1年前と比べた飲酒量について

宮古出身を問わず、40～50代男性の飲酒量が「減った」「どちらかという減った」という割合が高かった。(図19) その理由として、体調不良や健康診断結果の影響もしくは、今回のアンケート調査による介入により、飲酒頻度や量を見直した可能性が考えられる。

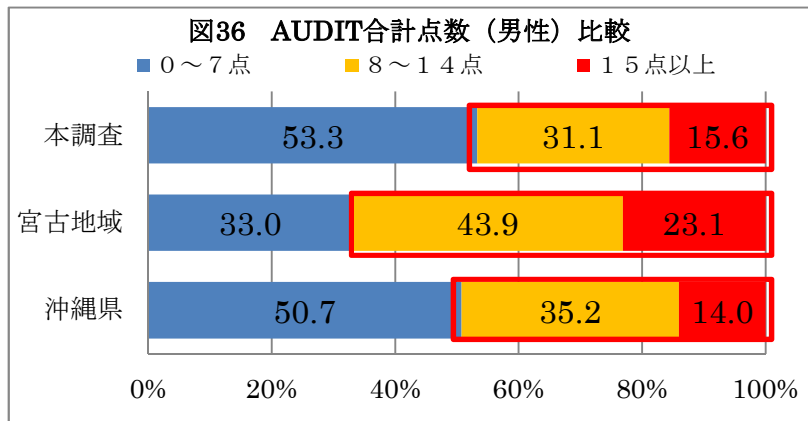
### 4. 新オトリーカードの使用について

新オトリーカードを配布した98人中、カードを使用したことがあるのは5人であり、使用頻度も少なかった。(図21・図22) 実際に提示して飲酒を断るツールとしては活用しにくいことが考えられる。

### 5. AUDIT 合計点数について

AUDIT 合計点数を年代別でみると、40～50代においてAUDIT8点以上の危険な飲酒群が多かった。(図23) 平成25年に宮古保健所が実施した「宮古地域における飲酒実態調査」ならびに、平成26年度に沖縄県が実施した「適正飲酒推進調査事業スクリーニング調査報告書」と比較すると、全体として、宮古地域よりは危険な飲酒群の割合が少なく、沖縄県と同程度の割合であった。(図36)

また、8月・10月・1月の3回のAUDIT 合計点数を比較すると、AUDIT8点以上の危険な飲酒群とAUDIT15点以上のアルコール依存症疑い群ともに割合が減っており、節酒意識の向上につながった可能性が示唆される。(図24)



#### 6. 新オトリーカードの有無と適正飲酒量の理解度について

新オトリーカード有り群の方が、カード無し群と比較して、適正飲酒量を理解している割合が多かった。(図 25) 男女別・出身別にみても同様に、カード有り群が理解度が高い傾向であった。(図 26・図 27) 新オトリーカード裏面に適正飲酒量を明記することで、いつでも確認する事ができ、今後の節酒意識の向上につながる事が期待される。

#### 7. 新オトリーカードの有無と飲酒量の変化について

新オトリーカード有り群が、カード無し群と比べて、飲酒量が「減った」「どちらかというと減った」と答える割合が多かった。(図 28) 男女別・地域別でもカード有り群の方が「減った」「どちらかというと減った」と答える割合が多く、反対にカード無し群の男性や、カード無し群の宮古出身以外は飲酒量が「増えた」「どちらかというと増えた」の割合が多かった。(図 29・図 30) 新オトリーカードを持つことで、飲酒量の低下につながる事が考えられる。

#### 8. 新オトリーカードの有無と AUDIT 点数について

新オトリーカード有り群とカード無し群の AUDIT 合計点数を比較すると、カード無し群の方が AUDIT の平均点数は低く、AUDIT 0～8 点の危険の少ない飲酒群の割合が多い結果となった。8 月の AUDIT 点数をカード有り群・無し群ともに 1 とした場合の 10 月、1 月の AUDIT 点数の低下率をみると、カード有り群の方が低下傾向にあったが有意差はなかった。(図 31) 男女別でみると、男性の AUDIT 点数の低下傾向が大きかった。(図 32・図 33) もともと飲酒の機会や飲酒量が多かった男性にとって新オトリーカードは効果的であった可能性がある。また、出身別でみると、宮古出身者以外のカード有り群は、AUDIT 点数低下率が大きかったが有意差はなかった。(図 34・図 35) このことから、新オトリーカードは問題飲酒の改善に有効である可能性が示唆された。

### V. まとめ

新オトリーカードを配布した群は、配布しなかった群と比べて、適正飲酒量の理解度も高く、飲酒量が「減った」「どちらかというと減った」と答える割合が多かった。さらに、新オトリーカード有り群の方が AUDIT 平均点数の低下率が高かった。よって、新オトリーカードを取得することは適正飲酒量の理解度向上と飲酒量減少において有効である可能性がある。ただし、飲酒を断るツールとしては、活用しにくいと考えられた。



# 【資料編】

